

## 2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、環境保全の実践に結びつくものとするため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。

### 2.1 環境学習の取組

#### (1) 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。今年度も環境に関する広範囲かつ専門的な知識を習得するため、基礎課程、実践課程を開講した。

各課程全10回。受講者：82人。修了者：69人。

#### 開講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
8月28日	持続可能な社会を目指した産官学民の連携	埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一	85頁

#### 閉講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
11月29日	水環境保全の目標をめぐって	広島大学大学院工学研究科 教授 岡田光正	90頁

#### 基礎過程

開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
10月9日	地球環境・埼玉の環境 埼玉県の温暖化の実態とその影響 －温暖化の生物・農業・健康への影響－	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 嶋田知英	91頁
10月9日	大気環境 －大気汚染と地球環境問題について－	埼玉大学大学院 教授 坂本和彦	92頁
10月16日	環境法学 自然の再生・創造と法の役割	東京経済大学 教授 磯野弥生	94頁
10月16日	埼玉の環境 埼玉の環境	埼玉県環境部環境政策課 主幹 落合通明	95頁
10月23日	自然環境 変化する野生生物	埼玉大学 非常勤講師 巢瀬 司	96頁
10月23日	環境経済学 足元の地域から環境再生をめざす	東京経済大学 教授 除本理史	97頁
10月30日	水環境 －健全な水循環と里川の再生－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 高橋基之	98頁
10月30日	廃棄物管理 持続可能な「ものづくり」と廃棄物管理	日本工業大学 教授 佐藤茂夫	99頁
11月6日	化学物質 気になる暮らしの化学物質	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 野尻喜好	100頁
11月6日	環境国際協力 「JICAの環境分野の取組み」 ～生物多様性分野の協力を中心に～	(独)国際協力機構(JICA) 森林・自然環境保全第一課 企画役 鈴木和信	101頁

## 実践過程


開催日	講義名	講師名	抄録掲頁
9月4日	環境学習の現状と課題 環境学習の今後の取り組み	立教大学大学院 教授 阿部 治	102頁
9月11日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげるコーディネーターの役割	NPO法人エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良	103頁
9月18日	事例研究① 地域で実践する里山保全活動	NPO法人むさしの里山研究会 理事長 新井 裕	104頁
9月18日	事例研究② 市民・学校・行政とのコミュニケーション	NPO法人川口市市民環境会議 代表理事 浅羽理恵	105頁
9月25日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己	106頁
10月2日	生物多様性の保全について 生物調査法の実践(生態園にて実地演習)	埼玉県生態系保護協会 統括主任研究員 高野 徹	107頁

## (2)公開講座

その時々々の環境に関する話題などを扱った環境科学トピック講座、事業所環境セミナー及び彩の国環境大学修了生フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ	参加者
① 環境科学トピック講座 話題となっている環境問題を取り上げ実施している。	2月3日(木)	講演 「人と地球にやさしい電動マイクロバス」	45人
② 事業所環境セミナー 事業所の環境教育担当者を対象に事業所における環境教育の推進を図るため開催している。	2月17日(木)	講義 「現場に密着した省エネルギー・環境活動の着眼点」 事業所における活動事例発表	65人
③ 彩の国環境大学修了生フォローアップ講座 地域で環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学の修了者を対象に支援を行うため開催している。	1月22日(土)	講演 「生物多様性とその保全」 活動事例発表 「権現堂・菜の花プロジェクトとエコライフDAY」	49人
④ 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	5月1日(土) 5月2日(日) 7月17日(土) 7月31日(土) 8月7日(土) 8月29日(日) 11月14日(日) 12月18日(土)	ネイチャーゲームで遊ぼう 見てみよう生態園の自然 川の生物で環境調査をしよう 竹で工作しよう～うぐいす笛～ 昆虫の標本を作ろう 小枝で作ろう好きなもの 見てみよう秋の生態園 実りのリースを作ろう	59人 76人 43人 30人 39人 80人 54人 39人



講座名	開催日	テーマ	参加者
⑤ 県民実験教室 簡易な化学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。  サイエンスショー「爆発実験！」	5月 3日(月)	リサイクル工作「ポンポン蒸気船」	324人
	5月 4日(火)	サイエンスショー「爆発実験！」	318人
	5月 5日(水)	リサイクル工作「ふわふわ飛行機、くるくるリボン」	413人
	6月13日(日)	廃油からリサイクル石けんを作ってみよう	45人
	7月19日(月)	大気の性質を調べてみよう	23人
	7月24日(土)	水の性質を調べてみよう	49人
	8月21日(土)	手作りモーターでプロペラ船を走らせよう	94人
	9月26日(日)	身近な物の中の化学物質を調べてみよう	24人
	10月24日(日)	音や振動のなぞを調べてみよう	24人
	11月14日(日)	サイエンスショー 「空気ってチカラ持ち!?!」「-196℃の世界」	419人
	11月14日(日)	リサイクル工作「飛べ!紙コップUFO」	196人
	12月11日(土)	スポンジ指人形を作ろう	46人
	12月12日(日)	草木染めをしてみよう	41人
	12月19日(日)	廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう	48人
1月23日(日)	光と虫めがね~ものはどうして見えるのか	45人	

### (3) 身近な環境観察局ネットワーク

身近な環境を調査することにより、環境問題への関心を高めることを目的に、県民、環境NGOや県内の中学、高校の科学クラブなどを身近な環境観察局としたネットワーク化を図っている。

観察局数:65局(平成23年3月31日現在)

### (4) 研究施設公開

夏休み、県民の日などに研究施設の一般公開を行っている。

開催日	内容	参加者
5月 1日(土)	ゴールデンウィーク	91人
8月20日(金)	夏休み	普段非公開の研究施設を見学するツアーを実施
11月14日(日)	県民の日	
		68人

### (5) その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
① ゴールデンウィーク特別企画	5月 1日(土)	・オリエンテーリングクイズ	参加者延 1,682人
	5月 5日(水)		
② 夏休み特別企画	7月17日(土)	・オリエンテーリングクイズ	参加者延 2,458人
	8月31日(火)		
③ 県民の日特別企画	11月14日(日)	・サイエンスショー ・リサイクル工作 ・オリジナルしおりづくり ・オリエンテーリングクイズ	参加者延 486人
④ 新春お楽しみ企画	1月 5日(水)	・オリジナルしおりづくり ・コバトンペーパークラフトづくり	参加者延 52人
	1月 6日(木)		

## 2.2 地域環境セミナー

地域環境セミナーは、県内地域の環境活動を支援するため、センターの職員が地域に出向いて行うもので、地域の自治体等と共催で、もしくは協力を得て実施するものである。

第5回目の今回は、市民及び埼玉県温暖化防止活動推進センターの実行委員会組織により開催された「低炭素まちづくりフォーラムin埼玉」に参加する形で実施した。

開催日	場所	内容	参加者
11月20日(土)	大宮ソニック市民ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会「生物多様性」</li> <li>・コメンテーター:温暖化対策担当主任研究員 嶋田知英</li> <li>・全体講評:総長 須藤隆一</li> <li>・ポスター展示(環境科学国際センターの取組)</li> </ul>	フォーラム参加者数 293人

### (1)分科会

生物多様性分科会の中で、嶋田知英研究員が「生物多様性とその保全」というテーマで講演を行うとともに、ワークショップでの意見交換に対するコメントを行った。

### (2)分科会全体講評

埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一

#### 【要旨】

「くらしのエコ」、「環境教育」、「生物多様性」、「太陽光発電」の4つの分科会ともに、それぞれ熱気にあふれていた。コメンテーター及びファシリテーターの話題提供後は、参加者から次々に出される意見に圧倒されるほどであった。それぞれが手短かに発言され、時間を厳守されていたことを見ると、運営に尽力した事務局とそれに協力した者の力と高く評価する。

低炭素まちづくりは温暖化対策の基本であり、「待ったなし」の状況であり、また世界の潮流でもある。これにいち早く取り組むことが持続可能な社会を実現できることになり、次世代まで含めた幸せを導くこととなる。それには、今回のフォーラムのように世代、性別、職業等を越えてエコの環をたくさん作ることが必要である。



分科会全体講評(須藤隆一総長)



生物多様性分科会(嶋田知英研究員)

## 2.3 加須市との環境学習の取組

平成22年11月6日、加須市の新市誕生記念イベント「加須市環境フォーラム2010」の中で、温暖化対策セミナーの一環として、須藤総長が基調講演「地球温暖化問題についてー私たちがやるべきことー」を行った。加須市民を中心とした多くの参加者があった(約220人)。

#### 【要旨】

「学びそして伝えること」 地球温暖化は人類の滅亡を導く史上最大の課題であり、多くの人たちにこれを伝える。

「考えること」 エコ社会の中での理想の生活はどのようなものか考える。

「今すぐできること」 祖先から伝え続けられている日々の『もったいない』を復活させる。

「何をやるべきか」 家庭や地域社会の中で低炭素社会における生活の知恵を伝えることが必要である。また、エコ地域に関わるNPOや地域団体、行政などが一体となってミニエコ社会を作り、それを核にエコ社会づくりを波及させるのが良い。